

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26283017

研究課題名(和文)メンタルヘルスツーリズムの展開

研究課題名(英文)Development of the mental health tourism

研究代表者

小口 孝司(OGUCHI, Takashi)

立教大学・現代心理学部・教授

研究者番号：70221851

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：メンタルヘルスを維持・向上させる方略としてツーリズムを用いる、メンタルヘルスツーリズムについて多方面から検討した。精神的に不健康な状態から脱するための方略としてのメンタルヘルスツーリズムの有効性を多様な研究によって検証した。さらにメンタルヘルスツーリズムが、健全な人の心身の健康、能力やスキルを向上させることを示した。またメンタルヘルスツーリズムを、企業が活用することによって、企業業績を向上させられることを、示した。今後の多方面での活用が期待される。

研究成果の概要(英文)：We examined the mental health tourism from various aspects as a strategy that maintains and improves mental health. The effectiveness of that to escape from the mentally unhealthy state demonstrated by many studies. Furthermore, we showed that it improves not only the mental and physical health but also abilities and skills. Besides, we showed that corporate earnings could improve by utilizing it. The utilization in many fields will be promising.

研究分野：観光学

キーワード：ツーリズム メンタルヘルス ストレス

1. 研究開始当初の背景

(1) 健康に関わる観光の総称として、「ヘルスツーリズム」が使われており、それは専門的な医療・治療型と一般的な健康増進型とを両極とする範囲の中において、類型化されて捉えられている。

(2) このヘルスツーリズムのうち、特に精神的健康を促進することを目的としたものを、申請者はメンタルヘルスツーリズムと定義した(Oguchi et al., 2008)。これが精神疾患、特にうつ病への有効な対策として活用できる可能性を実証してきた。

(3) 一方、心理学においては、ポジティブ心理学という新たな枠組みが、Seligman(1998)によって提唱されている。従来の心理学が扱っていたような、マイナス状態をゼロに戻す、あるいはゼロの状態を査定するというものではなく、ゼロからプラスにより高めていくという志向である。

(4) こうした心理学の流れを受けて、観光研究においても、心理学を研究のバックグラウンドとする著名な研究者の間で、ポジティブ心理学を観光研究に生かそうという研究が散見されるようになってきた(cf. Pearce, 2011, 2013)。

2. 研究の目的

以上の研究の流れを受けて、本研究においてメンタルヘルスツーリズムが、ストレスを緩和(マイナスをゼロに)するだけでなく、創造性や幸福感を高める(ゼロをプラスにする)ものとして活用できることを示すことを目的とした。特にプラス方向への可能性を実証的に探り、具体的な方策、提言へとつなげていくことを図った。

3. 研究の方法

(1) 多様な地域での実証研究を行った。研究分担者がフィールドとしている地域を対象として、研究を継続しているアクティビティでの検証を重ねた。さらに客観的な指標(指尖脈波等)を用いて、検証を行った。

(2) 一般の方々に、インターネット調査にご回答をいただき、心理モデルの作成を試みた。

(3) 産業連関分析を用いて、メンタルヘルスツーリズムの経済効果を検討した。

(4) 大手企業にご協力いただき、旅行経験と人事評価との関連性の解明を試みた。メンタルヘルスツーリズムのポジティブな効果を検証するためのものである。

4. 研究成果

(1) メンタルヘルスツーリズムを実践している宿泊施設にご協力いただき、宿泊された方から、その前後のデータを測定させていただき、メンタルヘルスツーリズムが主観的、客観的に効果があることを明らかにした。特に、疲労やストレスが高い人に効果があることが示された。これに関連した研究結果の一部が、下記の雑誌論文、、などで明らかにされている。さらに、図書などにも纏められている。

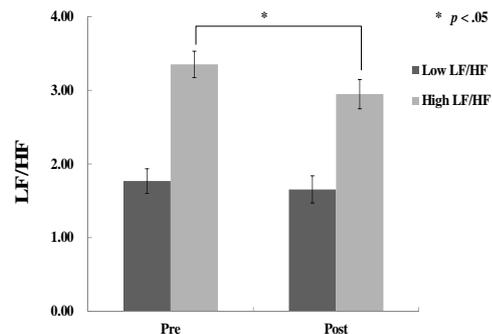


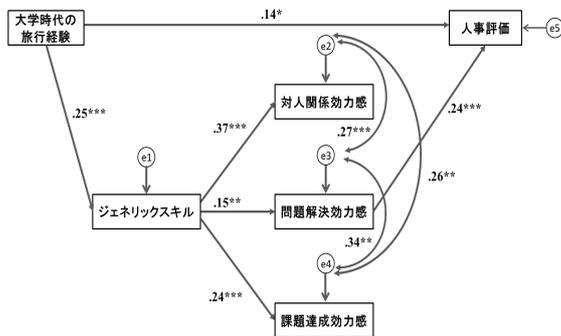
図1 疲労度(ストレス度)(LF/HF 値)が高い群と低い群における旅行の前後でのその値の変化 (出典:論文)

(2) メンタルヘルスツーリズムに関連する心理変数を用いて、心理モデルを作成し、その適合度が高いことを示した。ここから、メンタルヘルスツーリズムのプロセスの一端を明らかにすることができた。この研究の一部が、下記雑誌論文のに示されている。さらにこれに関連した著作として、下記の図書がある。

(3) マクロ的視点からメンタルヘルスツーリズムが日本にどのような経済的利益をもたらすのかを、産業連関分析から明らかにした。研究分担者の荒川が、招待論文のため下記の業績には掲載していないが、「観光研究」において解説している。

(4) 大手企業のご協力をいただき、非常に実現が困難な研究を実施することができた。そのデータを分析したところ、大学時代の旅行経験数と就職後の人事評価とが正の影響を及ぼしていることが示された。社会人となった後の旅行回数も、心理的変数を媒介して、人事評価にもプラスに作用していることが明らかになった。下記学会発表の結果がこれに相当する。

(5) 以上の研究結果は、数多くの論文や学会発表として公刊してきている。さらに得られたデータから、書籍にまとめて広く一般に公開していく予定である。



* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$
 GFI = .989, AGFI = .963, CFI = .988, RMSEA = .034
 注) パス係数は標準化係数。

図2 大学時代の旅行経験が、心理変数(ジェネリックスキル、自己効力感)を媒介して、人事評価に及ぼす効果 (出典:学会発表)

(6) 今回の研究は以上のように、当初狙っていた計画がほぼ遂行できた。しかしそれだけに留まらず、得られた結果を発表したもののうち2件が国際学会において Best Paper Award を受賞しており、特に1件は最優秀賞を得た。また、国内学会においても優秀発表賞を獲得している。さらに、観光の雑誌において、トップ3のジャーナルにも論文が掲載されており、さらに現在もそうしたジャーナルにおいて論文が審査中である。総じて、非常に評価の高い研究を生み出すことができた研究であったと言えるであろう。これは一重に、研究分担者の方々、研究協力者の方々のご尽力の賜物である。またこのような機会を与えていただいた、科研費にも深く謝意を表したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 26 件中 5 件)

Kawakubo, A., Kasuga, M., & Oguchi, T. Effect of a short-stay vacation on the mental health of Japanese employees. *Asia Pacific Journal of Tourism Research*, 査読有, 22, 2017, 565 - 578
 Doi: 10.1080/10941665.2017.1289228

Ohe, Y., Ikei, H., Song, C., & Miyazaki, Y. Evaluating the relaxation effects of emerging forest-therapy tourism: A multidisciplinary approach. *Tourism Management*, 査読有, 62, 2017, 322 - 334.

Ohe, Y. & Peypoch, N. Efficiency analysis of Japanese Ryokans: A Window DEA approach. *Tourism*

Economics, 査読有, 22, 2016, 1261 - 1273.

川久保 惇・小口 孝司 余暇における他者との交流が主観的幸福感および抑うつに及ぼす影響、*ストレス科学研究*, 査読有, 30, 2015, 69-76

川久保 惇・小口 孝司 メンタルヘルス・ツーリズムとしての短期旅行が従業員の精神的健康に及ぼす影響、*日本国際観光学会論文集*, 査読有, 22, 2015, 189 - 195

[学会発表](計 20 件中 3 件)

宮川 えりか、川久保 惇、小口 孝司 大学時代の旅行経験が人事評価に及ぼす影響、*産業・組織心理学会*, 2016年9月3日、立教大学新座キャンパス(立教大学新座キャンパス(埼玉県・新座市))【優秀学会発表賞 受賞】

Oguchi, T., Abe, K., & Sugai, K. Giving confectionary souvenirs and taking pictures makes tourists happy. *Proceedings of the 5th Advances in hospitality & tourism marketing and management (AHTMM) conference*, 2015年6月20日, 530 - 532. *Ritsumeikan Asia Pacific University (Ohita・Beppu)*, Oral presentation. 【The Best Paper Award 受賞】

Kawakubo, A., Kasuga, M., Ito, K., Komaza, M., & Oguchi, T. Effects of short-stay vacation on the mental health of Japanese employees. *21th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference Proceedings*, 2015年5月15日, (10 pages in CD-ROM) (Kuala Lumpur (Malaysia)): Oral presentation)

【The Best Paper Award: Dr. Hai Sik Sohn Award 受賞】

[図書](計 4 件中 2 件)

大江 靖雄 他、農林統計出版、都市農村交流の経済分析、2017、237

山口 一美、創成社、感動経験を創る! ホスピタリティ・マネジメント、2015、304

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小口 孝司 (OGUCHI, Takashi)
立教大学・現代心理学部・教授
研究者番号：70221851

(2) 研究分担者

大江 靖雄 (OHE, Yasuo)
千葉大学・園芸学研究科・教授
研究者番号：60302535

山口 一美 (YAMAGUCHI, Kazumi)
文教大学・国際学部・教授
研究者番号：60383220

荒川 雅志 (ARAKAWA, Masashi)
琉球大学・観光産業科学学部・教授
研究者番号：70423738

浦川 邦夫 (URAKAWA, Kunio)
九州大学・経済学研究院・准教授
研究者番号：90452482

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

花井 友美 (HANAI, Tomomi)
春日 未歩子 (KASUGA, Mihoko)
川久保 惇 (KAWAKUBO, Atsushi)
宮川 えりか (MIYAKAWA, Erika)
菅井 芳名子 (SUGAI, Kanako)